共産戦士 No.1 共産主義青年同盟内部通達 3.26

私、百名余の結集をもって共青同全国結成大会をかちとった。

我々の大会での最終的意志一致は「4・28国際沖縄・安保斗争を日帝権力中枢占拠—沖縄米軍基地突入—無数の新宿・神田を斗いとろう」であり、かかる4・28をもって、我々共青同が国際反帝統一戦線の中核隊として公然と大衆の前に登場するということである。

そして、それは何よりも'69～'70年の階級斗争の基本的性格から要請されている。

（各支部各班で大会で報告された基調報告議案を確実に読み合せし、意志統一をはかること）

〈Ⅰ〉国際階級斗争の現局面

① '69～'70年は「帝国主義列強のなし崩しファシズム化への突進—世界=一国同時革命の前段の政治危機」の時代、すなわち「プロ独・ファシズム化への世界史的な根本的解決がすでに先行的に問われ始めている」こととして規定される。（その具体的分析は基調議案参照）

② 各国帝国主義列強が帝国内部圧反革命を強め、なし崩しファシズム化へ突進しつつも、市場再分割戦と反革命を統一し切れないということは、国際—国内階級斗争を一挙的、同時的に激化させている。（戦旗一六九号参照）

③ そしてそれは、これまでであった「ヴェトナム戦争反対」—国際反帝統一戦線から「NATO—安保粉砕—ヴェトナム革命勝利」の国際反帝統一戦線に、転換しつつある。（戦旗一六九号）

④ それをたたかった第一は昨年8・3の国際反戦集会であり、THE SENAKI の成果として、第二は昨年10・21国際反戦斗争を頂点とした日本階級斗争の前衛的突出によってである。

⑤ 同時に、後進国の危機が中進国の危機に波及し、米帝の世界戦略が保守覇権派の指導、その中進国への全面的、軍事的集中に転換されることによって、[illegible]の市場再分割戦が本格化されねばならないという、国際階級斗争の[illegible]と市場再分割戦の意志が結合され、それ故各帝国主義列強が侵略[illegible]・国際反革命の一体化として進行されねばならないことを[illegible]としている。

⑥ すなわち、[illegible]階級斗争の激化は、不断にヴェトナム革命の如く国際的反革命斗争としてあるなく諸列強帝国主義との斗いに、反革命同盟粉砕斗争に[illegible]進展させるをえず、それ故先進国の階級斗争も反革命同盟を粉砕する[illegible]帝国主義打倒の斗いに飛躍せねばならず、その斗いとの結合はヴェトナム[illegible]一般的[illegible]— 反帝統一戦線としてはありえないことを意味している。

⑦ にもかかわらず、反革命同盟内における諸列強帝国主義の再編、抗争が米帝の[illegible]日、政に対する[illegible]と、日、独の政治的、軍事的膨脹の主導権確立、国際反革命同盟内に於るヘゲモニー確立を全面にして展開させなければならないからこそ、仏・英・伊等の没落帝国主義にあっては、仏の対ソ接近、伊、加の中共承認にみられる如く、それとの対抗関係を反反革命として展開し、国内危機（五月危機等々）→対外危機を反反革命外交戦略として押しおしつつその危機を集約し、国際プロレタリアート運動の分断が測られる方向をもっている。（日本にあっても反米という同様の構造をつくると、それ故人民戦線派は広汎に登場する。）

⑧ そして現在仏に於る「NATO粉砕斗争」を、ドイツのヘゲモニーによる再編反対、独ファシズム粉砕」の域を出ておらず、それ故ドゴールの反反革命同盟に吸収されつつ反ファシズム統一戦線に急速に転落する危険性を大きくもっている。（又、先日のゼネストは国内階級危機を深化し大衆的登場を示していると同時に、仏階級斗争をエドするヘゲモニーがかかる人民戦線派にあることを示している。）

⑨ そして、ソ連は反動的祖国主義斗争を準備し、その自己の中で平和共存へと転換し、各国階級斗争の革命化を人民戦線に封じこめ抑圧し現状維持勢力とし国家の危機と階級対立を軍事的、専制的に抑圧せんとしている。

又中共は国内危機を文革で一定程度収集したが周辺からの人民戦線路線の破産から国内危機をソ連排外主義に陰ぺいしようとしている。

⑩ これら⑧、⑨は丁度30年代初頭ヴェルサイユ体制の再編、抗争の中で仏にあってはヴェルサイユ体制の主役としてのブリアン外交の破綻（軍縮条約の行き詰まり、インドシナ半島での反乱等々）国内危機の激化がドイツに於るブリューニング内閣—パーペン内閣からヒットラーの登場をもって、反ファシズム統一戦線として事態のブルジョワ的収拾と帝国主義戦争への突入をもった過程と同質であり、独ファシズムの登場はプロレタリアートのヴェルサイユ体制打倒の斗いが、こうしてプロレタリアートの未結合にあったことはこれまで指摘して来た通りである。

⑪ そしてこのことはコミンテルンの「社会ファシズム論」は勿論のこととして、トロツキーの来たるべきファシズムに向けて反ファシズム統一戦線を結べばよいということでもない。

⑫ 帝国主義市場再分割戦→帝国主義戦争等の必然性は新興敗戦帝国主義に、自らの膨脹を反革命的膨脹として国際反革命同盟に於けるヘゲモニー確立を戦勝国以上の独自の膨張、反革命、軍行動への衝動という形態をとらせるのだが、ファシズムが登場するまでは、あくまでも反革命同盟内でのヘゲモニー抗争として表現されるが故に、市場分割戦の激化→国内、国際階級危機の深化を、各帝国主義はこれまでの反革命同盟内のヘゲモニー強化と既存権力の暴力的再編強化として国内・国際反革命を一体化として追求するが故に上からのなし崩し的ファシズムを世界同時的に先行させずにはおかない（ドイツにおけるブリューニング内閣、パーペン内閣、フランスに於るブリアン外交路線破綻の反動内閣、ダラディエ内閣等々である）

⑬ このことはこの時期にその既存権力の暴力的再編に対し、その打倒を不可明確に掲げた権力斗争としての世界=一国=プロレタリアート運動を不可欠とするということであり、その永続性と同時性の獲得によってのみ、新興敗戦帝国主義の反革命的膨脹→侵略反革命軍事行動→ファシズムと、戦勝帝国主義の既存の反革命同盟維持→反反革命→人民戦線との帝国主義戦争への過程を世界革命戦争に転化しうる。勿論、新興敗戦帝国主義→ファシズム、帝国主義戦争→人民戦線派という構造は固定化したものとしてあるのではない。例は仏=ドゴール外交路線が、どの帝国主義よりも先に行き詰り、国内"危機"を激化された時、これがファシズムへ行く可能性を持っている。問題はこの時期の国際階級斗争で人民戦線派にヘゲモニーがあったら必ずこの構造になるということである。

⑭ 今、没落帝国主義、仏、英の国内危機→対外危機、新興帝国主義西独・日本の対外危機→対内危機、米帝の対外・対内同時危機として各帝国主義列強は国際—国内反革命の一体化とその強化が世界—一国同時的に問われており、そのいずれの帝国主義においてもこれまでの反革命同盟内のヘゲモニー強化と既存権力の暴力的強化の方向でそれが追求されねばならない段階であるからこそ、上からのなし崩し的ファシズム化という意味で、ニクソン—佐藤—ドゴール—キージンガーのそれは全く同質であり、それ故、世界=一国同時革命前段の基本的政治危機として把えることができる。

⑮ 故に、安保・NATO斗争とはニクソン—佐藤—ドゴール—キージンガー打倒の各帝国主義におけるプロレタリア権力斗争としてあると

いうことであり、各国に於るかかる斗争の激化＝内乱によってのみ、反帝革命ー民主的ナショナリズムー人民戦線派を左から解体、吸収させ、それ故疎外された労働者国家の世界革命の根拠地化を可能にし先進国、後進国、労働者国家の三つの階級斗争を結合させ世界一国同時革命ー世界革命戦争の展望を切り開く　ことができるのであり、69年～70年の国際階級斗争の任ムとは、かかる方向での世界＝一国反帝統一戦線の中核に我が同盟が登場することである。

〈II〉安保ーNATO斗争＝権力斗争

① 安保ーNATO斗争が権力斗争として斗われなければならないこと、なみなつ、それは一国的権力斗争としてではなく、世界＝一国として展開されねばならないことは〈I〉よりして自明であり。

② 米帝の世界戦略が、保守貿易派の抬頭ー中進国への軍事的・経済的集中、とりわけ日帝、東南アへの巻き返しへの転換としてある時　韓ー台ー比ーインドネシア等々は米帝にとっても死活の問題としてある以上、米韓ー米比ー米台協定の要としてある沖縄米軍基地維持は変更することのできない基本線としてある。

③ 又、日帝にとっては、韓ー台ー比ーインドネシア等々は市場獲得の要であり、それ故、沖縄の侵略前線基地は必要であり、にもかかわらず、韓国を中心とした階級斗争の深刻化は、朴政権等の反革命的政権との経済的、政治的、軍事的な直接的結合を必然とするが故に、なし崩し的に、日米共同軍事行動等々の体制を下からの暴力的に準備させていかねばならない。

④ 故に、安保粉砕斗争は日米両帝国主義の同時打倒に於てしかありえないことは③④からも自明である。

そして一国社会主義的立場にある中核派等々は、日米再分割戦激化と共になし崩し的ファシズム化が必然化するところから　ブルジョワジー内部からの米帝との斗争を主張する部分の登場と、大衆のナショナリズムを代表する公明社民の民主的ナショナリズム派ー人民戦線派の日米関係打開論に吸引され、'60年～'70年階級斗争がこれら人民戦線派に主ドされるという構造になり〈I〉で指摘したファシズムへの突入を許すことになる。

⑤ 問題は、なし崩し的ファシズム化が必然化させるような人民戦線派の登場と、これに主ドされた階級斗争、具体的には、国会解散↓佐ト内閣打倒（社ー非武装中立ー安保破棄ー日中国交回復ー社会党政府、日共ー安保破棄通告政府の樹立ー社共共斗ー安保国民会議）への展[illegible]全くありえない状況を創出することによって、即ち権力斗争の時代と[illegible]ハッキリさせる状況を創出することによってこれら人民戦線派の実践的解体を押し進めねばならない。

⑥ この事は、佐トのなし崩し的ファシズムを我々世界プロ独派が権力斗争として斗い抜くことによって、更に反革命として密集させていくということであり、又、この国際的階級斗争の客観的進行は日米市場分割戦の激化と共に日米反革命同盟の抗争、分裂を激化させずにはおかないし、それ故、米帝内階級斗争を激化させ、日米両帝国主義同時打倒の展望を現実のものとしていかざるをえない。

〈III〉4/28斗争の革命的戦術ー

① 昨年の10.21斗争を我々は安保の第一波として斗い抜いた。

第一は10.8以降あった個別基地斗争、米タン斗争を安保斗争としての巨波として形成すること。

第二は、それ故　安保の内実が海外派兵ー日米共同軍行動にあることから、それを鮮明にすべく防衛庁攻撃斗争としてそれを設定した。

第三は　それは単に一国的安保斗争としてありえない以上、これまでのベトナム反戦国際反戦等々一戦線に飛躍させる戦術的環として　防衛庁斗争を設定した。

② かくして　10.21斗争はこれまでの個別・分散的斗争を安保の巨波へと高めたのは確実であり、同時に防衛庁ー新宿ー三里塚と、ほぼ、安保斗争への基本的型をつくりだした。我々は、中央権力斗争ーマッセンストライキ　とそれを総括した。

かくてわれわれは　大衆的登場の中から、佐ト訪米阻止ー佐ト帝国主義政府打倒ー首相官邸デモ斗争としてルサ・への連続性を追求した。

③ だが　10.21に於て安保斗争の地平へ飛躍したということは安保斗争が日米両帝国主義同時打倒・権力斗争として斗われねばならない以上　一旦佐ト訪米阻止の戦術としてのみ首相官邸デモ斗争は設定されることはできず　その戦術は内在的には権力斗争の時代の戦術として　すでに問われていたということであり　かかる権力斗争の時代にあっては　大衆的登場の連続性の保障は　決定的に　プロレタリアートのヘゲモニーが問われるということであり　具体的には　ヨーロッパ　とりわけ米の階級斗争との結合の方向からその連続性が追求されねばならなかったのである。（いわばこのことの無自覚が　10.21斗争にあっては　新宿斗争が防衛庁斗争をという　一面的ワイ少な把握に陥入ったのである。）

④ 一昨年10.8が切り開いた階級斗争の新たな局面が　昨年の10.21斗争を結節点にして更に新しい地平　安保粉砕斗争＝権力斗争の時代への飛躍が要請されているのが現在の段階であり　東大斗争を軸とした入試阻止斗争は10.8以降の階級斗争の昇りつめた局面として把えねばならない。

⑤ かくて　我々は4.28斗争に於て　安保第二波として「沖縄・安保国際斗争を日帝政府中枢権力占拠ー沖縄米軍基地突入ー無神の神田ー新宿を」実現することによって　これまでのべてきた方向に階級斗争の新たな地平を切り拓き　連続的な斗争の登場をつくり出し　内閣打倒↓国会解散の人民戦線派の解体↓吸収を展望していかねばならない。

⑥ そしてこのことを可能とする第一の条件は　米欧の階級斗争の再度の登場である。（反NATOヨーロッパ青年会議の結成ー4.26国際斗争の確認ー二訪欧阻止斗争　カリフォルニア州立大学の学園占拠斗争　自動車運転手労組のストetc　戦旗一六七号参照）第二の条件は3.15品川抜き打ちスト、3.18国労時限スト等々を中心に　完全に総評民同の解体下からのMが自然発生的にもホーフツしてきている。（又日常的になった中小零細スト・・・）第三の条件は総評外相訪米を頂点に　ブルジョワ内部の安保への対応をめぐって分裂と動揺を更に確実に深刻化させ、それ故統治能力を失い大衆の自然発生的高揚と分解が不可避なものとして見通せる。

⑦ 故に4.28斗争を確実に我々は日本階級斗争の一切のヘゲモニーを握ることを目指し　そのために以下の準備を4.28に向けなさねばならない。

第一に労働戦線にあっては　これまでの社民のかさの下で日共と対抗しつつ戦斗的職場斗争を展開していた段階から　独自の職場政治ストを創出し更に日共等々との党派斗争を全面的に引き受けつつ、社民の分解吸収の展望をつくり出すこと。（具体的には更に検討されねばならないが　いずれにしても4.28当日に独自の職場斗争を追求すること。半日ストー時間外ー時間内集会etc）。又このことはレッパ斗争の関係にありても不可欠である。

第三にその組織的展望はなし崩しファシズム化が権力ー資本ー体制ー右派労働組合の育成として進行するが故に　議会ー組合体制に回収する中間派（社青スタ）を解体させ、すでに下部組合員は組合に頼るべきものをもたなくなっている、という段階にあって地区反戦ー地区反安保斗争と結合した職場での組織的運動が必要とされているということである以上　地区反戦の強化拡大が不可欠である

第四に　その為に　上からの党派間協定を媒介に　上からのセクト的系列反戦を止揚し　同時に各地区で[illegible]ボツ発している出版を中心と要組化案の斗争等々を各地区反戦が包摂し抜くことであり、地区政治斗争を軸としての公然

たる大衆的承認を得るまでに強化されねばならない。ただ個別闘争に反戦が登場し結合することによって　現在闘われている当面闘争を4/26～4/28をもって安保占拠への日常化の展望をつくらねばならない。

第五に　4/28闘争の切り拓く前面は　確実に权力闘争の時代に突入することを告げるが故に　プロレタリアートが不断に权力を問われるものとして活動にそのヘゲモニーが問われ、即ち国際的展望が問われ、それを我々は4/26～4/28の国際階級闘争の動揺と共に八日国際反戦集会を準備し、反反革命的　安保・NATO粉砕国際反戦統一戦線から　白色帝国主義粉砕　NATO粉砕粉砕一日世界一日反戦統一戦線を獲得しなければならない。

⑧　なくて我々は　3/30三里塚闘争デー・新宿防衛スト闘争を踏まえ、4/28闘争の持つ可能性を断固獲得し　6日愛知新城米ーASPAC日米王朝会談粉砕の大衆的闘争　8日国際反戦集会から11月冬ト部米阻止　日米帝人民に武装闘争を展開せねばならない。

⑨　尚　权力闘争の時代というのは何も今すぐ武装として权力奪取をやろうということではなく　ねばっこく粘り強くプロレタリアートが日常的に权力を問われる闘争として永続的に展開されていくということであり　そのことを現在にて　ただ現代の階級闘争と主体とをぶつけることによって权力の獲得した反革命とプロ独裁との永続的対決へとつながれるのである。

<3>